

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

学校法人名	学校法人関西大学	大学名	関西大学
研究プロジェクト名	ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成		

平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

研究成果報告書概要

別 紙 資 料

# 目 次

1. 関西大学データサイエンス研究センター運営内規 .....	p.1
2. 関西大学外部資金審査・評価部会からの意見等(平成 27 年度) .....	p.4
3. 関西大学外部資金審査・評価部会からの意見等(平成 30 年度) .....	p.7
4. 関西大学データサイエンス研究センター外部評価委員一覧 .....	p.8
5. データサイエンス研究センター外部評価委員会による評価結果(平成 28 年度).....	p.9
6. データサイエンス研究センター外部評価委員会による評価結果(平成 30 年度)....	p.15
7. 国際学術雑誌 特集号 I .....	p.21
8. 国際学術雑誌 特集号 II .....	p.22
9. 国内学術雑誌 特集号.....	p.24
10. 国際ワークショップ .....	p.25
11. 国際会議 KES2015 からの謝辞 .....	p.32
12. 国際会議 ICDM2015 からの贈賞 .....	p.33
13. 国際会議 APWC on CSE 2015 ベストペーパー賞 .....	p.34
14. 国際会議 ICAMA in Beijing 2016 ベストペーパー賞 .....	p.35
15. メディアにおける紹介実績 I .....	p.36
16. メディアにおける紹介実績 II .....	p.37
17. メディアにおける紹介実績 III .....	p.39
18. 研究会の開催状況 .....	p.43
19. 海外での情報発信状況 .....	p.50

# 関西大学データサイエンス研究センター運営内規

制定 平成26年7月28日

## (趣 旨)

第1条 この内規は、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構（以下「研究機構」という。）規程第4条の規定に基づき、平成26年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受けた研究組織であるデータサイエンス研究センター（以下「センター」という。）の運営に関して必要な事項を定める。

2 データサイエンス研究センターの英文表記は、Data Science Laboratoryとする。

## (目 的)

第2条 センターは、多様なビジネス分野にデータサイエンスの様々な技術を応用し、基礎技術・アプリケーションの開発、消費者行動のモデル開発、実践による検証というデータサイエンスプロセスを実現する総合的研究拠点を形成することを目的とする。センターは消費者行動、環境マネジメント、金融・会計などの領域においてビッグデータ解析の産学連携拠点を構築し、卓越した国内外の研究機関との連携のもとで当該分野における世界トップレベルの研究拠点を形成する。

## (事 業)

第3条 センターは、前条に規定する目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 共同研究プロジェクトの学術研究及び調査
- (2) 研究調査に必要な資料の収集整理
- (3) 学術研究に関する研究成果の発表
- (4) 研究発表会及び講演会の開催
- (5) その他センターが必要と認める事業

## (構 成)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 研究員

2 センターに前項のほか必要ある場合は、次に掲げる職員をそれぞれ置くことができる。

- (1) 副センター長
- (2) 特別任用研究員
- (3) ポスト・ドクトラル・フェロー
- (4) リサーチ・アシスタント
- (5) DSラボフェロー
- (6) 非常勤研究員
- (7) 外部評価委員

#### (センター長及び副センター長)

第5条 センター長はセンターを統括し、代表する。

- 2 センター長は研究プロジェクトの研究代表者とし、研究機構運営委員会の議を経て研究機構長が学長に推薦し、理事長が任命する。
- 3 副センター長は、センター長を補佐し、必要に応じて、その職務を代行する。
- 4 副センター長は、本学専任教育職員の研究員のうちから、センター推進委員会の議を経て選出し、研究機構長が任命する。
- 5 センター長及び副センター長の任期は研究プロジェクトの実施期間とする。

#### (研究員)

第6条 研究員は、第12条に規定するセンター推進委員会の議を経て研究機構長が学長に推薦し、理事長が任命する。

- 2 研究員の任期は、前条第5項に規定する研究期間とする。

#### (特別任用研究員、ポスト・ドクトラル・フェロー、リサーチ・アシスタント)

第7条 特別任用研究員、ポスト・ドクトラル・フェロー（以下「PD」という。）及びリサーチ・アシスタント（以下「RA」という。）の任用及びその他の事項は、別に定める。

- 2 センターにPD及びRAをとりまとめるPD長を置くことができる。
- 3 PD長は、PD及びRAのうちから、センター推進委員会の議を経て、センター長が任命する。

#### (DSラボフェロー)

第8条 DSラボフェローは、大学等の研究機関に所属する研究者又はそれに相当する研究実績を有すると認められる研究者のうちから、センター推進委員会が決定し、研究機構長が委嘱する。

- 2 DSラボフェローの任期は、第5条第5項に定める研究期間とする。

#### (非常勤研究員)

第9条 非常勤研究員は、前条に規定するDSラボフェロー以外で、センターの研究活動に関連する研究実績を有する研究者のうちから、センター推進委員会が決定し、研究機構長が委嘱する。

- 2 非常勤研究員の任期は、第5条第5項に定める研究期間とする。

#### (センター外部評価委員)

第10条 センター外部評価委員は、学外の有識者の中から、センター推進委員会の議を経て研究機構長が委嘱する。

- 2 センター外部評価委員は、センターに関する人事、組織、施設・設備、運営の状況等活動全般について評価を行い、評価結果をセンター長に報告する。
- 3 センター外部評価委員の任期は、第5条第5項に定める研究期間とする。

#### (センター推進委員会)

第11条 センターにセンター推進委員会を置く。

- 2 センター推進委員会は、センター長、本学専任教育職員の研究員、研究機構長または副機構長及び研究機構事務グループ長で構成する。
- 3 委員長は、センター長をもって充てる。
- 4 委員長は、必要に応じて、学外研究員及び学内外学識経験者の出席を求め意見を聴くことができる。

第12条 センター推進委員会は、センター長が招集し、議長となる。

- 2 センター推進委員会は、次の事項を審議決定する。
  - (1) センターの運営に関する事項
  - (2) 第3条各号に掲げる事業に関する事項
  - (3) 研究設備等の運用と管理に関する事項
  - (4) センターの人事に関する事項
  - (5) 特別任用研究員、PD、RAの人事に関する事項
  - (6) センターの自己点検・評価及び外部評価に関する事項
- 3 センター推進委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。

#### (センター外部評価委員会)

第13条 センターに外部評価委員会を置く。

- 2 センター外部評価委員会に関し必要な事項については、別に定める。

#### (事務)

第14条 センターに関する事務は、ソシオネットワーク戦略研究機構事務グループが行う。

#### (規程の改廃)

第15条 この内規の改廃は、センター推進委員会の議を経て、研究機構運営委員会の承認を得るものとする。

#### 附 則

この内規は、平成26年7月28日から施行し、平成26年7月1日から適用する。

# 外部資金審査・評価部会からの意見等

平成 27 年 12 月 25 日

研究代表者

ソシオネットワーク戦略研究機構

商学部

矢田 勝俊 教授

研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長

吉田 栄司

研究代表者の先生におかれましては、ご多用中、種々ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

貴プロジェクトにおかれましては、平成 28 年度に中間評価を迎えることとなりますので、学内における研究プロジェクト支援（進捗管理）の一環として「進捗状況チェックシート」及び「研究成果の概要」をご提出いただきました。

外部資金審査・評価部会において、研究の進捗状況について検討させていただきました結果、各委員から以下のようなご意見を頂きましたので、ご報告申し上げます。

来年度の文部科学省への報告書作成に際して、これらの意見をもとに、ご対応いただければ幸いです。

## 記

項目	コメント
1. 研究組織 について	<p>センター長を頂点に、責任ある運営・管理体制のもとで調査研究が推進されている様相が具体的に記述されており、十分な先行実績を背景に問題ない進捗状況であると判断できる。また、研究推進に必要な事務局体制面についても、ソシオネットワーク戦略研究機構事務グループが担当・支援し、車の双輪のごとく円滑な研究推進体制を構築していると判断する。また、国内外との連携関係や、DSプログラムの開設をはじめ、若手研究者の育成にも十分配慮されている研究推進体制であることも高く評価できると思料する。これらを通じて次代を担う若手研究者のPD・RAが次段階の研究職に就くことができるよう本人の努力はもとより、本研究プロジェクトの関係者各位によるさらなる指導・支援体制の強化を期待する。</p> <p>データサイエンス研究センターの研究組織については、センター内規に従って適切に運営されている。4 チームでの研究活動が進行しているが、チーム間の連絡も密であると評価できる。またプロジェクトの研究支援活動は、母体であるソシオネットワーク戦略研究機構との連携が重要であると考えられるが、その点についても問題ないと考えられる。海外共同研究機関との協力体制も、十分であると考えられる。</p>

## 外部資金審査・評価部会からの意見等

<p>2. 研究施設・設備等について</p>	<p>研究施設と設備・備品の設置関係が明確に記載されており、効果的に運用・活用されていると判断できる。特に、中枢的な情報処理関係施設である多次元・時系列データサイエンスクラウドシステムは、これまでの研究期間、停止することなく常時稼働中であるという点も高く評価できる。この安定した運用実績も研究者の利便性を担保しており、今後の研究期間中に生み出される研究成果にも期待がもてる。</p> <p>研究スペースの確保、研究者の利便性のための24時間稼働については高く評価できる。装置・設備の利用については適切であると考えられる。</p>
<p>3. 研究計画の進捗（達成）状況・これまでの研究成果等について</p>	<p>具体的に数値化された達成度は記載されていないが、順調な研究の開始状況と判断できる。センター長以下、本研究プログラムの関係者が論文や研究集会などを通じて、研究計画に記された内容に即した成果を公開されていることも評価できる。ただし、採択通知が遅れ実質的に研究期間が約1年という制限もあるが、実際の研究活動の運営過程で析出されるであろう、所期に設定した研究課題を超える新たな課題や問題点、修正点などについての言及が看取できず、現状ではこの点についての評価が難しいと思料する。なお、今後の研究期間における研究成果の生成・獲得過程についての具体的な記述もあり、期間内に充実した将来的に発展する諸成果を獲得されることを期待する。</p> <p>研究計画は順調に推移していると考えられる。社会的還元については、当初の計画にあまりとらわれず、適宜前倒しで実行してもよいかもしれない。</p>
<p>4. 評価体制について</p>	<p>運営委員会による自己点検が適切に実施され、その結果は本プロジェクトの構成員にフィードバックされ、周知されていると判断できる。また、具体的な委員構成が記載された外部評価委員会による評価が今後、年1回実施される予定であり、同委員会による改善に繋がる指摘を真摯に受け止め、着実に調査研究に反映するという基本方針も評価できる。ただし、外部評価を受ける場合には、本研究分野の主旨と今後の展開を視野に、当該研究の個別的评价に止まらず、広範な視野から位置づけと達成度の評価を得られるようにすることが必要であると思料する。</p> <p>自己評価は適切に行われていると考えられる。しかし、やや記載に具体性が乏しいようにも見られる。どのように改善点があるか、示してもよいのではないだろうか。</p>

## 外部資金審査・評価部会からの意見等

<p>5. 外部の研究資金の導入状況について</p>	<p>研究拠点の使命の一つである科研費をはじめとした外部資金の申請を積極的に行い、センター長による基盤研究(A)をはじめ、一覧にあるような高い採択率から研究推進能力が高い実績のある研究者群によるプロジェクトであると判断する。特に、若手研究者が採択されている点も評価できる。あわせて、企業からの指定寄付や省庁、財団法人からの研究助成も受けており、社会的にも研究の意義が認知された調査研究が円滑に行われている証左でもあると思料される。</p>
	<p>外部資金の導入については、科研費をはじめとして十分な成果を得ており、まったく問題はないと考えられる。</p>
<p>6. 留意事項への対応について</p>	<p>該当せず。</p>
<p>7. 特記事項について</p>	<p>問題なし。</p>
<p>8. 総合所見</p>	<p>十分な先行研究の成果を背景に、構想調書に依拠した調査研究はもとより、新たに生じた課題にも積極的に対応できる研究体制で推進されていると判断できる。総体として、本研究プロジェクトは4チームで構成される研究組織がフレキシブルに機能し、調査研究の推進と成果が順調に創生・獲得されているであろうと推量できる。これには中核をなす情報処理関係施設である、多次元・時系列データサイエンスクラウドシステムの安定した稼働状況も寄与している。本研究は、研究課題に対してダイバーシティの担保された研究チームの明確な問題意識や方向性の共有を基礎に、十分な能力を備えた研究者群で推進されていると思料されるが、今後の研究期間では所期の研究課題の範囲に止まらず、良い意味で構想調書の殻を打ち破り、析出された新たな課題や問題に積極的な挑戦・克服を試みられることを望む。研究期間終了後には、本プロジェクトが目指した研究目的・内容を集約・総括されることを通じて、次段階への発展が期待できる国際性に富んだサステイナブルな研究課題・組織のひとつとして、社会的にもその意義が認知され優先的に推進すべき重要な研究領域と学内外で評価されるよう、尽力されることを期待する。</p>
	<p>総じてプロジェクトは順調に推移しており、研究拠点形成も計画通りに推移していると考えられる。外部資金の取得や、組織間の連携など、高く評価できる面も多い。ただ、計画にあまりこだわることなく、たとえば自己評価において問題が見つかった場合など、フレキシブルな対応があってもよいのではないだろうか。</p>

以上

「ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成」

研究代表者

ソシオネットワーク戦略研究機構

商学部・教授・矢田 勝俊 殿

研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長

吉田 宗弘

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に係る最終評価（5年目）の結果について

このたびご提出いただきました研究成果報告書（学内評価用）につきまして、研究推進委員会の専門部会である外部資金・審査評価部会において評価した結果について、下記のとおりご報告申し上げます。

つきましては、評価結果を踏まえ、来年5月末日締切の文部科学省への報告書作成に向けたとりまとめをお願いするとともに、引き続き研究の適切な遂行に努めていただくと幸いです。

記

**＜総合評価点＞ 4.00**

※総合評価点の凡例

4：優れた成果がみられた 3：成果がみられた 2：やや不十分であった 1：成果があがらなかった

＜評価における主な意見＞

- ・書籍・学術雑誌（論文）・学会報告などにおいて顕著な研究成果が生み出されており、加えて若手研究者育成においても大きな貢献が見られ、共同研究が活発かつ効果的に行われたと判断できる。
- ・アイトラッキングを用いた調査実験等、実験の被験者に関する個人データについては、研究倫理の観点から、その取扱いにくれぐれも留意されたい。
- ・当初の計画通りに着実に研究が進展しており、今後の成果についてもかなりの期待ができる状況である。
- ・若手研究者の中、PDの育成については成果が記されているが、大学院生の教育と指導については具体的に述べられていない。今後、大学院生の育成について明確な教育計画を明示するとともに一層の努力を求めたい。

以 上

関西大学データサイエンス研究センター  
外部評価委員一覧

氏名	役職・選定理由
原 正浩	<p><b>三菱食品株式会社（旧株式会社菱食）</b> <b>執行役員 マーケティング本部長</b></p> <p>日本の食品卸業界を牽引する三菱食品株式会社で、率先してデータマイニングを用いた商品管理を取り入れ、同社 R-プランニング部で部長を務めた。実践的経験から、学術的な分野の研究者には無い見識を具備しているため、当プロジェクトの店舗実験やデータマイニングのビジネス応用についての的確な助言、評価が可能である。</p>
元田 浩	<p><b>元米国国防総省空軍科学技術局</b> <b>アジア宇宙航空研究開発事務所科学顧問</b></p> <p>これまでに環アジアの知識発見、データマイニング分野の学術会議で数多くの委員を務め、本務の他に大阪大学名誉教授、大阪大学産業科学研究所招へい教授、タスマニア大学計算科学科非常勤教授の職を務める。国際的フィールドで活躍してきた経歴から、世界トップレベルの研究拠点形成において有用な助言と、的確な評価ができる研究者である。</p>
山口 高平	<p><b>慶應義塾大学工学部管理工学科教授</b></p> <p>セマンティック Web、オントロジー、データマイニングが専門で、人工知能学会会長・編集委員長、情報システム学会理事・編集委員長、電子情報通信学会論文査読委員などの要職を歴任している。データサイエンスの深化を目指す世界トップレベルの研究拠点を形成するうえでの的確な助言、評価が可能である。</p>

# 外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 26 年度～30 年度）

平成 28 年 12 月 26 日

ご氏名： 原 正浩

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

## 1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

研究員の活動状況

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

共同研究機関との連携状況

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

プロジェクトの管理、運営、リーダーシップは非常に組織的に行われている。活発な共同研究が行われており、素晴らしい研究成果が生まれている。

## 2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

データマイニング応用に関する文理融合 NOE の構築

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

産学連携による実践科学

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

活発な研究活動のもと、国際的な情報発信が行われている。

### <現在までの進捗状況及び達成度>

予定より前倒しで計画を達成している。

### <問題点とその克服方法>

特になし。

### <今後期待される研究成果>

企業との共同研究のさらなる発展を期待する。

# 外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 26 年度～30 年度）

平成 28 年 12 月 24 日

氏名： 元田 浩

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所 属 部 局 名	職 名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教 授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

## 1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

5 (特によい)    4 (よい)    3 (普通)    2 (要改善)    1 (特に要改善)    0 (評価保留)

研究員の活動状況

5 (特によい)    4 (よい)    3 (普通)    2 (要改善)    1 (特に要改善)    0 (評価保留)

共同研究機関との連携状況

5 (特によい)    4 (よい)    3 (普通)    2 (要改善)    1 (特に要改善)    0 (評価保留)

コメント

3つの応用領域において多くの研究員を効果的に組織している。複数チーム間の共同研究が順調に進んでおり、研究プロジェクトのマネジメントがうまく機能していることが窺える。

## 2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

データマイニング応用に関する文理融合 NOE の構築

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

産学連携による実践科学

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

国際会議を中心とする海外への研究成果の発信が積極的に行われ、顕著な研究成果がみられる。当該研究領域の国際研究ネットワークの中心的存在として学术界、実務界から関心を集めており、今後の展開が期待される。

<現在までの進捗状況及び達成度>

申請予定より早い進捗が見られ、予想以上の成果が出ている。

<問題点とその克服方法>

特になし。

<今後期待される研究成果>

計画調書に従い、着実に進めていくことを期待する。

# 外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 26 年度～30 年度）

平成 28 年 1 月 4 日

ご氏名： 山口 高平

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所 属 部 局 名	職 名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教 授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

## 1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

5 (特によい)    4 (よい)    3 (普通)    2 (要改善)    1 (特に要改善)    0 (評価保留)

研究員の活動状況

5 (特によい)    4 (よい)    3 (普通)    2 (要改善)    1 (特に要改善)    0 (評価保留)

共同研究機関との連携状況

5 (特によい)    4 (よい)    3 (普通)    2 (要改善)    1 (特に要改善)    0 (評価保留)

コメント

うまく組織された研究体制をとっていると認められる。顕著な研究成果もあがっており、効果的なマネジメントが行われているものと推察される。

## 2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

データマイニング応用に関する文理融合 NOE の構築

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

産学連携による実践科学

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

着実な進捗が見られる。

### <現在までの進捗状況及び達成度>

進捗は順調である。

### <問題点とその克服方法>

特になし。

### <今後期待される研究成果>

新しい研究領域における体系化に邁進してもらいたい。

# 外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2014(平成26)年度～2018(平成30)年度)

2018年6月25日

ご芳名: 原 正浩 

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

## 1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

⑤(特によい) 4(よい) 3(普通) 2(要改善) 1(特に要改善) 0(評価保留)

研究員の活動状況

⑤(特によい) 4(よい) 3(普通) 2(要改善) 1(特に要改善) 0(評価保留)

共同研究機関との連携状況

⑤(特によい) 4(よい) 3(普通) 2(要改善) 1(特に要改善) 0(評価保留)

コメント

プロジェクトの管理、運営、リーダーシップは非常に組織的に行われている。共同研究が活発に行われており、個々の研究員の専門領域の強みを活かしたマネジメントによって素晴らしい研究成果が生まれている。

## 2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

データサイエンスを実現する文理融合型 NOE の構築

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

産学連携を通じた研究推進

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

コメント

活発な研究活動のもと、国際的な連携や情報発信が行われている。最新のセンサーデバイスを用いた消費者行動の調査、生産過程における不良発生要因の分析など応用領域ごとの産学連携を通じた研究において、国際連携で得られた知見を現実のビジネスに応用している点は大いに評価できる。

## 3. 研究成果について

研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

コメント

企業との共同研究の成果が得られており、実務に成果を発揮し得る知見を提供できる研究拠点として、今年度もさらなる発展に期待している。

# 外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2014(平成26)年度～2018(平成30)年度)

2018年 6月 22日

ご芳名： 元田 浩

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

## 1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

研究員の活動状況

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

共同研究機関との連携状況

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

コメント

3つの応用領域それぞれにおいて個々の研究員の強みを効果的に引き出せる組織となっている。複数チーム間の共同研究は十分な成果を得ており、研究プロジェクトのマネジメントがうまく機能していたものと評価する。

## 2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

データサイエンスを実現する文理融合型 NOE の構築

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

産学連携を通じた研究推進

5 (特によい)    4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

コメント

国際会議に加えて、国内外の雑誌論文で特集号を編集し、研究成果の発信を積極的に行っており、得られた研究成果も顕著である。企業との共同研究は、当初の計画に変更が生じたものの、十分な成果が得られるよう着実に進められている。

## 3. 研究成果について

研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

コメント

多様なビジネス分野において国際連携、産学連携を並行して進めており、当該研究領域の国際研究ネットワークの中心的存在として学术界、実務界から関心を集めている。共同研究者との連名の論文も多数あり、研究拠点として十分機能したものと評価する。

# 外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2014(平成26)年度～2018(平成30)年度)

2018年 6月 22日

ご芳名： 山口 高平

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

## 1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

⑤(特によい) 4(よい) 3(普通) 2(要改善) 1(特に要改善) 0(評価保留)

研究員の活動状況

⑤(特によい) 4(よい) 3(普通) 2(要改善) 1(特に要改善) 0(評価保留)

共同研究機関との連携状況

⑤(特によい) 4(よい) 3(普通) 2(要改善) 1(特に要改善) 0(評価保留)

コメント

うまく組織された研究体制をとっており、研究員、共同研究機関とともに多数の研究成果をあげている。これは効果的なマネジメントが行われていたものと推察される。

## 2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

データサイエンスを実現する文理融合型 NOE の構築

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

産学連携を通じた研究推進

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

コメント

データサイエンスの実現について、国際会議や主催ワークショップにて情報発信が活発に行われており、新しい研究領域における体系化に向けて着実な進捗が見られる。

## 3. 研究成果について

研究拠点形成に向けて、十分な研究成果を実現しているか。

5 (特によい)   4 (よい)   3 (普通)   2 (要改善)   1 (特に要改善)   0 (評価保留)

コメント

国内外で共同研究に関する多数の論文が発表されており、各応用領域の研究者や実務者から大きな注目を集めている。研究プロジェクトによって得られた知見は新たな研究領域の開拓に対して大いに貢献するものであり、研究拠点として十分な成果が得られたと判断できる。

**LOG IN**

For Authors, Editors, Board Members

Username

●●●●●●●●

Remember me



[Forgotten?](#)

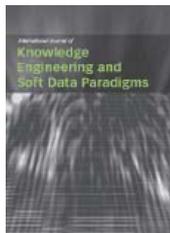


- [Home](#)
- [For Authors](#)
- [For Librarians](#)
- [Orders](#)
- [News](#)

Article search

Go

[Home](#) > [International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms](#) > 2016 Vol. 5 No. 2



[Browse issues](#)

- [Vol. 5](#)
- [Vol. 4](#)
- [Vol. 3](#)
- [Vol. 2](#)
- [Vol. 1](#)

## International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms

2016 Vol. 5 No. 2

Special Issue on Data Mining and Service Science for Innovation

Guest Editor: Professor Katsutoshi Yada



Pages	Title and authors
68-84	<b>Identifying behaviour objective from traffic behaviour log data by using facility ontology</b> Yu Sugawara; Takeshi Morita; Hidenao Abe; Shuichi Matsumoto; Takahira Yamaguchi DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075975
85-105	<b>Prediction of consumer purchase behaviour using Bayesian network: an operational improvement and new results based on RFID data</b> Yi Zuo DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075976
106-122	<b>Assessment of basic clustering techniques using teaching-learning-based optimisation</b> Bikram Keshari Mishra; Nihar Ranjan Nayak; Amiya Kumar Rath DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075977
123-134	<b>Using mixed integer optimisation to select variables for a store choice model</b> Toshiki Sato; Yuichi Takano; Takanobu Nakahara DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075980
135-145	<b>Estimation of customer behaviour in sales areas in a supermarket using a hidden Markov model</b> Natsuki Sano DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075981
146-160	<b>A two-nation experiment to investigate the relationships among national culture, individual-level cultural variables and consumer attitudes toward advertising websites and the brand</b> Kazuhiro Kishiya; Gordon E. Miracle DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075984

- [Sign up for new issue alerts](#)
- [Subscribe/buy articles/issues](#)
- [View sample issue](#)
- [Latest issue contents](#)
- [Forthcoming articles](#)
- [Journal information in easy print format \(PDF\)](#)

- [Publishing with Inderscience: ethical guidelines \(pdf\)](#)
- [View all calls for papers](#)
- [Recommend to a librarian](#)
- [Feedback to Editor](#)

- [Find related journals](#)
- [Find articles and other searches](#)

### Keep up-to-date

- [Our Blog](#)
- [Follow us on Twitter](#)
- [Visit us on Facebook](#)
- [Join us on Google+](#)
- [Our Newsletter \(subscribe for free\)](#)
- [RSS Feeds](#)
- [New issue alerts](#)



**LOG IN**

For Authors, Editors, Board Members

**Username**

●●●●●●



Remember me

[Forgotten?](#)



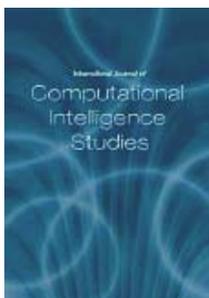
- [Home](#)
- [For Authors](#)
- [For Librarians](#)
- [Orders](#)
- [News](#)

Article search

Go

[For authors](#) > [Calls for papers](#) > [Special issue](#)

## Call for papers



Int. J. of Computational Intelligence Studies

### Special Issue on: "Data Science for Big Data"

*Guest Editor:*

Prof. Katsutoshi Yada, Kansai University, Japan

In recent years, due to the dramatic spread and progress of sensor networks, cloud computing and social services, varied and enormous quantities of data are being produced and accumulated on networks. Using big data, which is an aggregate of this varied and large quantity of data, and making innovative services and business models has gained a lot of interest from researchers and practitioners around the world. This big data involves numerous technological problems that should be resolved urgently.

Data science is a generic name for the theory of methods and technology for extracting useful knowledge from data, and is an interdisciplinary research field covering numerous fields such as statistics, computer science and machine learning. This study is considered to be an important key in unlocking value from big data. Applications of data science cover a wide range of fields from business and medicine through to agriculture and government, where real world practitioners have great expectations.

This special issue will focus on the methods, technologies and theories, as well as their applications, relating to data science that uses the value from big data. The issue aims to investigate how various approaches to data science obtain value from big data and whether new services can be developed. We expect submitted papers to stimulate new models, approaches and examples of applications, etc. in data science using big data.

### Subject Coverage

Suitable topics include, but are not limited to, the following:



### For Authors

- [Registered authors: log in above](#)
- [Online submissions: new author registrati](#)
- [Preparing articles](#)
- [Submitting articles](#)
- [Copyright and author entitlement](#)
- [View all calls for papers](#)
- [Conferences/Events](#)

### Keep up-to-date

- [Our Blog](#)
- [Follow us on Twitter](#)
- [Visit us on Facebook](#)
- [Join us on Google+](#)
- [Our Newsletter \(subscribe for free\)](#)
- [RSS Feeds](#)
- [New issue alerts](#)



- [Cloud/grid computing](#)
- [High-performance computing](#)
- [Machine learning](#)
- [Text and semi-structured data mining](#)
- [Knowledge representation](#)
- [Statistics and probability](#)
- [Service ontologies and modelling](#)
- [Applications](#)
  - [Engineering](#)
  - [Management](#)
  - [Marketing](#)
  - [Operations processes](#)
  - [Accounting and finance](#)
  - [Medicine and nursing care](#)
  - [Public administration](#)

## Notes for Prospective Authors

Submitted papers should not have been previously published nor be currently under consideration for publication elsewhere. (N.B. Conference papers may only be submitted if the paper has been completely re-written and if appropriate written permissions have been obtained from any copyright holders of the original paper).

All papers are refereed through a peer review process.

**All papers *must* be submitted online.** To submit a paper, please read our [Submitting articles](#) page.

## Important Dates

Submission of manuscripts: *14 September, 2015*

Notification to authors: *16 November, 2015*

Final versions due: *18 January, 2016*



- [活動概要](#)
- [会長挨拶](#)
- [支部紹介](#)

機関誌「オペレーションズ・リサーチ」 Vol.62, 2017年

- |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|
| 1月号 | 2月号 | 3月号 | 4月号 | 5月号 | 6月号 | 7月号 | 8月号 | 9月号 | 10月号 | 11月号 | 12月号 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|

特集 センサーデバイス・マーケティング

特集にあたって	矢田勝俊	774
視覚計測による消費者行動の理解	里村卓也	775
視線追跡データに基づいたネットワーク外部性効果の検証	李 振	782
店舗内の時系列な行動が購買行為に与える効果に関する研究	石橋 健, 宮崎 慧, 矢田勝俊	789
ベイジアンネットワークを用いた消費者行動モデルの構築実験	左 毅, 矢田勝俊	795
隠れマルコフモデルによる顧客店舗内行動の推定	佐野夏樹	801
スケールの階層性から探るスーパーマーケットの消費者行動	金子雄太, 矢田勝俊	807

本誌2017年総目次

学会だよ	829
研究部会報告	819
編集後記・次号予告	815
	828

イベントカレンダー

2018年度第1回ORセミナー

『Python 言語によるビジネスアナリティクス』  
 日時：2018 年7月28日  
 (土)10:00～17:00  
 場所：(株)構造計画研究所 本所  
 新館

本部SSOR 2018

-創立60周年記念事業-  
 特別講演：大宮元会長、大山前会  
 長  
 日程：2018年8月29日(水)～31日  
 (金)  
 場所：水上温泉 源泉湯の宿 松乃  
 井(群馬県)

中国・四国地区SSOR

日程：2018年9月13日(木)  
 場所：白夷(はくじ)会館(鳥取市)

第30回RAMPシンポジウム

日程：2018年10月10日(水)～11日  
 (木)  
 場所：広島国際会議場

シンポジウム

2018年秋季シンポジウム

日程：2018年9月5日(水)  
 場所：名古屋市立大学  
 川邊キャンパス病院ホール

2019年春季シンポジウム

日程：2019年3月13日(水)  
 場所：千葉工業大学  
 津田沼キャンパス